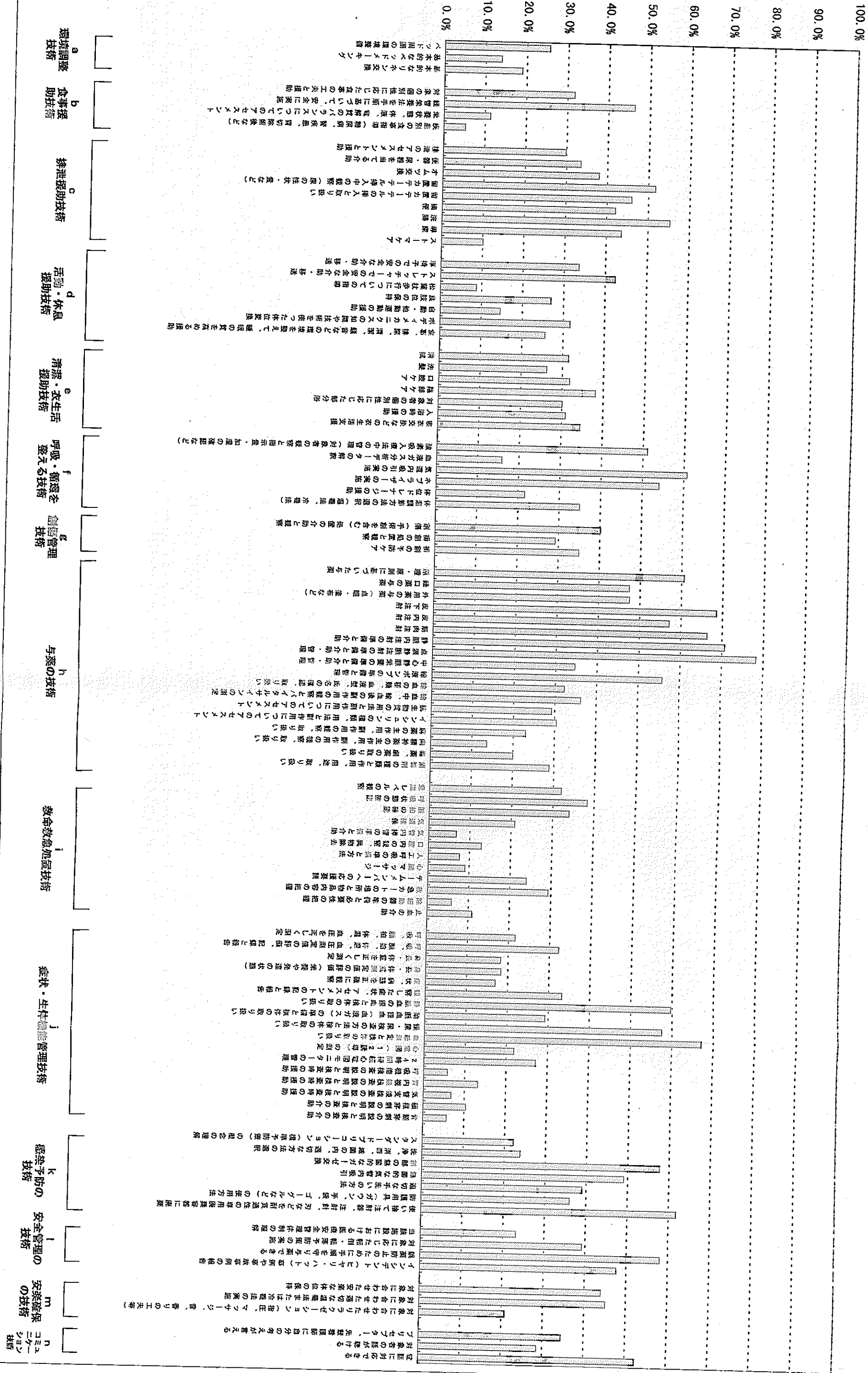


図B-2 入職時から現在までの「一人でできる」の伸び幅



図B-3 実習経験の度合いと入職時技術習得状況との関連

	入職時一人でできる 70%以上	入職時一人でできる 50~70%	入職時一人でできる 30~50%	入職時一人でできる 30%未満
実習経験70%以上	<ul style="list-style-type: none"> e 基本的なベッドメイキング a 基本的なリネン交換 j 呼吸、脈拍、体温、血圧を正しく測定 j 身長・体重を正しく測定 	<ul style="list-style-type: none"> a ベッド周囲の環境整備 c 便器・尿器を当てる介助 c オムツ交換 d 車椅子での安全な介助・移送 e 清拭 e 洗髪 e 口腔ケア e 寝衣交換などの衣生活支援 j 呼吸、脈拍、体温、血圧測定値の評価、記録と報告 	<ul style="list-style-type: none"> d ボディメカニクスの知識や技術を使った体位変換 e 陰部ケア e 対象者の個別性に応じた部分浴 e 入浴時の援助 f 体温調節方法の選択（温湿法、冷湿法） j 身長・体重測定値の評価（栄養や発達の状態） k 適切な手洗いの方法 m 対象に合わせた適切な温湿法または冷湿法の実施 	<ul style="list-style-type: none"> c 排泄のアセスメントと援助 j 観察した症状、アセスメントの記録と報告 m 対象に合わせた安楽な体位の保持
実習経験50~70%			<ul style="list-style-type: none"> d ストレッチャーでの安全な介助・移送 i 脈拍の確認 	<ul style="list-style-type: none"> b 対象の個別性に応じた食事の工夫と援助 c 留置カテーテル挿入中の観察 d 良肢位の保持 d 食事、排尿、清潔、騒音などの環境を整えて、睡眠の質を高める援助 j 症状、病態を正確に観察 k 防護用具の使用法
実習経験30~50%			<ul style="list-style-type: none"> h 経口薬の与薬 h 外用薬の与薬（点眼・塗布など） k 使い捨て注射器、注射針、刃などを耐熱性の専用廃棄容器に廃棄 	<ul style="list-style-type: none"> b 栄養状態、体液、電解質のバランスについてのアセスメント b 疾患別の食事指導 c 洗腸 d 自動・他動運動の援助 f ネブライザーの実施 g 創傷（手術創を含む）処置の介助と観察 g 褥創の予防ケア h 原理・原則に基いた与薬 i 呼吸状態の確認 k 創部の無菌的なガーゼ交換 l 対象に応じた転倒・転落予防策の実施 m 対象に合わせたリラクゼーション
実習経験30%未満				<ul style="list-style-type: none"> b 経管栄養法を手順に基づいて、安全に実施 c ストーマケア c 摘便 c 導尿 c 留置カテーテルの挿入と取り扱い d 松葉杖歩行についての指導 f 気道内吸引の実施 f 血液ガス分析データの解釈 f 酸素吸入療法中の管理 f 体位ドレナージの援助 g 褥創の処置と観察 h インシュリンの種類、用法と副作用についてのアセスメント h 筋肉注射 h 向精神薬の副作用、副作用の観察、取り扱い h 抗生物質の用法と副作用についてのアセスメント h 消毒剤の種類と作用、用途、取り扱い h 静脈内注射の準備と介助 h 中心静脈栄養の準備と介助・管理 h 点滴静脈注射の準備と介助・管理 h 消毒、創薬の取り扱い h 皮下注射 h 皮内注射 h 麻薬の副作用、副作用の観察、取り扱い h 輸血の種類、血液型、氏名の確認、取り扱い h 輸血中、輸血後の副作用の観察とバイタルサインの測定 i チームメンバーへの応援要請 i 意識レベルの観察 i 気管内挿管の準備と介助 i 気道確保 i 救急カートの場所と物品内容の把握 i 口腔内の観察、異物除去 i 止血の介助 i 除細動器の準備と必要性の把握 i 心臓マッサージ i 人工呼吸の準備と方法 i 輸液ポンプの準備と管理 j 24時間持続心電図モニター管理 j 胃内視鏡検査の説明と検査時の援助 j 気管支鏡検査の説明と検査時の援助 j 血糖測定と検体の取り扱い j 呼吸機能検査の説明と検査時の援助 j 腰椎穿刺の説明と検査の介助 j 骨髄穿刺の説明と検査の介助 j 尿検査の方法と検体の取り扱い j 心電図（12誘導）の測定 j 静脈血の採血と検体の取り扱い j 動脈血採血（血液ガス）の準備と検体の取り扱い k 洗浄、消毒、滅菌の内、適切な方法の選択 k 無菌的な気管内吸引 l インシデント（ヒヤリ・ハット）事例や事故事例の報告 l 誤薬防止のために手順を守り与薬できる l 当該施設における医療安全管理体制の理解

(註)
a=環境調整技術 b=食事援助技術 c=排泄援助技術 d=活動・休息援助技術 e=清潔・衣生活援助 f=呼吸・循環を整える g=創傷管理技術
h=与薬の技術 i=救急救命処置技術 j=症状・生体機能管理技術 k=感染予防の技術 l=安全管理の技術 m=安楽確保の技術 n=コミュニケーション技術

図B-4 実習経験の割合と3か月後の技術習得状況との関連

	現在一人でできる 70%以上	現在一人でできる 50~70%	現在一人でできる 30~50%	現在一人でできる 30%未満
実習経験70%以上	<ul style="list-style-type: none"> a ベッド周囲の環境整備 a 基本的なベッドメイキング a 基本的なリネン交換 c 便器・尿器を当てる介助 c オムツ交換 d 車椅子での安全な介助・移送 e 清拭 e 洗髪 e 口腔ケア e 陰部ケア e 対象者の個別性に応じた部分浴 e 寝衣交換などの衣生活支援 f 体温調節方法の選択(温湯法、冷湯法) j 呼吸、脈拍、体温、血圧を正しく測定 j 呼吸、脈拍、体温、血圧測定値の評価、記録と報告 j 身長・体重を正しく測定 k 適切な手洗いの方法 m 対象に合わせた適切な温湯法または冷湯法の実施 	<ul style="list-style-type: none"> c 排泄のアセスメントと援助 d ボディメカニクスの知識や技術を使った体位変換 e 入浴時の援助 j 身長・体重測定値の評価(栄養や発達の状態) m 対象に合わせた安楽な体位の保持 	<ul style="list-style-type: none"> j 観察した症状、アセスメントの記録と報告 	
実習経験50~70%	<ul style="list-style-type: none"> c 留置カテーテル挿入中の観察(尿の性状・量など) d ストレッチャーでの安全な介助・移送 i 脈拍の確認 	<ul style="list-style-type: none"> b 対象の個別性に応じた食事の工夫と援助 d 食事、排尿、清潔、騒音などの環境を整えて、睡眠の質を高める援助 k 防護用具(ガウン、手袋、ゴーグルなど)の使用法 	<ul style="list-style-type: none"> d 良肢位の保持 	<ul style="list-style-type: none"> j 症状、病態を正確に観察
実習経験30~50%	<ul style="list-style-type: none"> c 洗腸 f ネブライザーの実施 h 原理・原則に基づいた与薬(与薬までに少なくとも3回は患者名・指示内容と照合、複教で確認など) h 経口薬の与薬 h 外用薬の与薬(点眼・塗布など) k 使い捨て注射器、注射針、刃などを耐貫通性の専用廃棄容器に廃棄 	<ul style="list-style-type: none"> g 褥創の予防ケア i 呼吸状態の確認 k 創部の無菌的なガーゼ交換 l 対象に応じた転倒・転落予防策の実施 	<ul style="list-style-type: none"> g 創傷(手術創を含む)処置の介助と観察 m 対象に合わせたリラクゼーション(指圧、マッサージ、音、香りの工夫等) 	<ul style="list-style-type: none"> b 栄養状態、体液、電解質のバランスについてのアセスメント b 疾患別の食事指導(糖尿病、腎疾患、胃切除術後など) d 自動・他動運動の援助
実習経験30%未満	<ul style="list-style-type: none"> h 皮下注射 h 筋肉注射 h 静脈内注射の準備と介助 h 点滴静脈注射の準備と介助・管理 j 血糖測定と検体の取り扱い i 誤薬防止のために手順を守り与薬できる 	<ul style="list-style-type: none"> b 経管栄養法を手順に基づいて、安全に実施 c 留置カテーテルの挿入と取り扱い c 排便 f 酸素吸入療法中の管理(対象者の観察と指示量・加湿の確認など) f 気道内吸引の実施 h 皮内注射 h 輸液ポンプの準備と管理 j 静脈血の採血と検体の取り扱い j 採尿・尿検査の方法と検体の取り扱い k 無菌的な気管内吸引 l インシデント(ヒヤリ・ハット)事例や事故事例の報告 	<ul style="list-style-type: none"> c 導尿 f 体位ドレナージの援助 g 褥創の処置と観察 h 中心静脈栄養の準備と介助・管理 h 輸血の種類、血液型、氏名の確認、取り扱い h 輸血中、輸血後の副作用の観察とバイタルサインの測定 h 抗生物質の用法と副作用についてのアセスメント h インシュリンの種類、用法と副作用についてのアセスメント h 消毒剤の種類と作用、用途、取り扱い i 意識レベルの観察 i チームメンバーへの応援要請 i 救急カートの場所と物品内容の把握 j 動脈血採血(血液ガス)の準備と検体の取り扱い k 洗浄、消毒、滅菌の内、適切な方法の選択 	<ul style="list-style-type: none"> c ストーマケア d 松葉杖歩行についての指導 f 血液ガス分析データの解釈 h 麻薬の副作用、副作用の観察、取り扱い h 向精神薬の副作用、副作用の観察、取り扱い h 毒薬、劇薬の取り扱い i 気道確保 i 気管内挿管の準備と介助 i 口腔内の観察、異物除去 i 人工呼吸の準備と方法 i 心臓マッサージ i 除細動器の準備と必要性の把握 i 止血の介助 j 心電図(12誘導)の測定 j 24時間持続心電図モニター管理 j 呼吸機能検査の説明と検査時の援助 j 胃内視鏡検査の説明と検査時の援助 j 気管支鏡検査の説明と検査時の援助 j 腰椎穿刺の説明と検査の介助 j 骨髄穿刺の説明と検査の介助

(註)

a=環境調整技術 b=食事援助技術 c=排泄援助技術 d=活動・休息援助技術 e=清潔・衣生活援助 f=呼吸・循環を整える g=創傷管理技術
h=与薬の技術 i=救急救命処置技術 j=症状・生体機能管理技術 k=感染予防の技術 l=安全管理の技術 m=安楽確保の技術 n=コミュニケーション技術